

# 小児肺炎球菌ワクチン予防接種説明書

〈小児の肺炎球菌感染症の予防〉

## 肺炎球菌感染症とは？

肺炎球菌は、細菌による子どもの感染症の二大原因のひとつです。この菌は子どもの多くが鼻の奥に保菌していて、ときに細菌性髄膜炎、菌血症、肺炎、副鼻腔炎、中耳炎といった病気を起こします。

肺炎球菌による化膿性髄膜炎の罹患率は、ワクチン導入前は5歳未満人口10万対2.6~2.9とされ、年間150人前後が発症していると推定されていました。致命率や後遺症例（水頭症、難聴、精神発達遅滞など）の頻度はHib（ヒブ）による髄膜炎より高く、約21%が予後不良とされています。現在は、肺炎球菌ワクチンが普及し、肺炎球菌性髄膜炎などの侵襲性感染症は激減しました。

## 接種について

子どもで重い病気を起こしやすい13の血清型について、子どもの細菌性髄膜炎などを予防するように作られたのが、小児の肺炎球菌ワクチン（13価肺炎球菌結合型ワクチン）です。

その他のワクチンとの同時接種を行うことについては、その必要性を医師が判断し、保護者の同意を得て接種が行われます。

対象者	標準的な接種期間	接種開始時期	回数	接種間隔
生後2ヵ月～60ヵ月	初回接種 生後2ヵ月～7ヵ月に至るまで	2ヵ月～7ヵ月 (標準的な接種時期)	初回：3回 追加：1回	・初回：生後24ヵ月に至るまでの間に27日以上。ただし、2回目の接種生後12ヶ月を超えた場合、3回目は行わない。 ・追加：初回終了後60日以上の間隔をおいて、生後12ヶ月に至った日以降に、1回
		7ヵ月～12ヶ月	初回：2回 追加：1回	・初回：生後12ヶ月に至るまでの間に27日以上。ただし、2回目の接種は24ヵ月までに行う事とし、それを超えた場合は行わない。 ・追加：初回終了後60日以上の間隔をおいて、生後12ヶ月に至った日以降に、1回
	追加接種 初回接種終了後60日以上の間隔をおいて生後12ヶ月～15ヵ月に至るまで	12ヶ月～24ヵ月	2回	・60日以上
		24ヵ月～60ヵ月	1回	・1回のみ

※接種開始時期によって接種回数が異なります。なお、長期にわたり療養を必要とする疾病などで予防接種を受ける事ができなかったと認められるお子さん対しても同様とします。

## 副反応について

副反応は、接種局所の紅斑、腫脹（はれ）、全身反応として主なものは発熱で32.9~50.7%に認められています。

医療機関から副反応の疑い例として報告されたうちの重篤症例の発生頻度は0.00198%です。